

「学びの基礎力」育成に関わる家庭と学校での指導・活動の現状

ベネッセ教育総研 小林 洋

はじめに

第2章-3で「学びの基礎力」をめぐる子どもたちの自己評価の現状を見たが、このような力が家庭や学校でのどのような指導や活動によって育つのかを調べ、「学びの基礎力」を育てていくための具体的な指針を得るため、「学びの基礎力」の育成に効果があると考えられる家庭や学校での指導や活動のレベルを問う調査を併せて実施した。本節では、この調査の結果の概要を紹介し、次章で「学びの基礎

力」と家庭・学校での指導や活動との関係、そして具体的にどのような指導や活動が「学びの基礎力」育成に寄与しているかを見るにあたっての前提となるデータや材料を提供したい。なお、「生きる力」を育てる学習活動については、前回の調査で一通り報告済みであるため、今回の調査は、「学びの基礎力」育成に関わる活動・経験に主眼を置いたものであることをお断りしておきたい。

1 「学びの基礎力」を育てる指導・活動項目の考え方について

「学びの基礎力」の個々の力について、それぞれがどのような指導・活動を通して育成されていくものかは必ずしも単純ではない。今回の「学びの基礎力」の中には、すべてのベースにあるものとして「豊かな基礎体験」を考え、自然体験などの具体的な体験のレベルも含めているが、これらの項目の自己評価を左右するのは、もちろん、家庭や学校での同じような経験の積み重ね具合であろう。しかし、例えば、「ふだんから計画を立てて勉強している」という計画的に学習を進める力については、「計画的に勉強しなさい」という学校や家庭での教示や、あるいは、「学習計画表」の活用を義務付ければ、それだけで育つものではなく、少なくとも「勉強すれば自分は伸びる」という自己の潜在的な能力に対する肯定的な意識、あるいは自分の学習状況に対する適切な自己評価やそれに基づく学習目標・課題についての理解などが成立している必要があることは、すでに前に考察した通りである。すなわち、

「学びの基礎力」としてあげている多くの項目は、「基礎力」といっても、多くの場合、その育成には系統的で複合的な指導や活動が要求されるのである。

しかし、「学びの基礎力」の一つ一つの項目すべてについて、このような系統性・複合性を考えることは、膨大な作業となるため、今回の家庭や学校における指導・活動を考えるにあたっては、系統性・複合性を常に念頭に置きながらも、さしあたり、「学びの基礎力」の各項目の力ごとに、その育成に効果があると考えられる指導・活動を「総合学力研究会」に参加の学校現場の先生方に洗い出していただき、検討を加えていく過程を経て決めていった。すなわち、例えば、「学びの基礎力」の「自然体験」については、家庭の場面では「家族といっしょに自然の中でいろいろな活動をする」、学校の場面では「(授業や行事の中で)豊かな自然の中で楽しく活動する」という活動の項目をそれぞれ設定し、また、「ふだんから

『ふしぎだな』『なぜだろう』と感ずることが多い」という「知的好奇心」については、家庭の場面では「家族から世の中のふしぎな話やワクワクするような話を聞く」、学校の場面では、「(授業や行事の中で)おもしろい実験や楽しい教材を使って学習する」という指導・活動の項目を設けている。また、「ものごとをやり遂げた喜びを味わったことがある」という「達成経験」に対しては、家庭では「習い事やスポーツ、勉強などで自分が立てた目標を達成できるように家族が応援してくれる」「やり始めたことは途中で投げ出さずに最後までやりとげるように言われている」、学校では「校内のマラソン大会やドリル・プリントなどに取り組む時は、自分で目標を立てて、それを達成するようにがんばろう(と先生から言われたり、すすめられたりしている)」という指導・活動を設けるといふ具合に、「学びの基礎力」の4領域の項目について、その育成に関わると考えられる指導・活動の項目を「家庭」と「学校」の2つの場面から設けていった。

ただ、「学びの基礎力」すべての項目について、家庭と学校の両面で、それぞれ求められる望ましい指導・活動の項目を設けることは、調査実施上の時間的な制約もあるため、どちらかと言えば学校よりも家庭で重点的に取り組まれるべきこと、あるいは家庭よりも学校で主に取り組まれるべきこととの事前の想定から、家庭か学校のどちらか一方のみで設けたものがあり、最終的には合計93の項目に絞り込んでいる。

例えば、「学びの基礎力」において「学習スキル」の一つとしてあげている「ノートの取り方」を身に付ける指導・活動については、家庭の場面での項目は入れず、学校の場面のみにおいて「上手なノートの取り方(の説明を先生から受けてきた)」という設問を入れているし、反対に、「学びの基礎力」に含めている「家族との支え合い」(学習の精神的な基盤である家族における良好な人間関係に関わる項目)については、学校

の場面での働きかけの項目は省き、家庭の場面のみにおいて「家族といっしょに成績表をみて、これからの目標などについて話す」といった設問を入れている。

図表2-5-1および図表2-5-2は、このようにして設定した家庭と学校における指導・活動の程度に関する子どもの意識の調査結果を表したものである。

この図表では、学習意識調査票の設問の並びそのものではなく、図表2-5-1の「家庭での指導・活動」については、「○○するように言われている」といった指示的なカテゴリーとしての「Ⅰ. 教示・ガイダンス」、および家族とともに活動し経験するようなカテゴリーとしての「Ⅱ. 学習活動」、また家族や地域からの声かけ・応援・励ましなどの子どもの目の高さで共感的な視線で望ましい行動を後押しするようなカテゴリーとしての「Ⅲ. 支援環境」の3つに大きく分類して示した。さらに「教示・ガイダンス」については、「行動促進的教示」と「認知的指導」の2つのサブカテゴリーに分けている。前者はある行動をさせる上での直截的な指示のニュアンスが強く、後者は子どもに刺激を与えたり考えさせる材料としての何らかの知識・情報の伝達を伴うものとした。

また、同様に、「Ⅱ. 学習活動」に関しては、「体験的活動」と「認知的活動」に分けている。

また同様に、図表2-5-2の学校における指導・活動についても、「Ⅰ. 教示・ガイダンス」および、子どもの悩みや問題に個別にアドバイスしたり相談にのったりする活動のカテゴリーとしての「Ⅱ. カウンセリング」、および「Ⅲ. 学習活動」の3つに分類し、家庭における指導・活動の場合に準じて、さらにサブカテゴリーに分けて示している。

この図表の項目すべてについて詳しく見ていくことはできないが、以下に特徴的なことに注目して紹介したい。

■設問文と選択肢の対照表(次の図表2-5-1と図表2-5-2に関する設問の対照表)

		1	2	3	4
問1	あなたは、家族で次のようなことをすることが、どれくらいありますか？	よくある	とどきどき とある	あまりない	まったくない
問2	次のようなことは、あなたにどれくらいあてはまりますか？	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
問3	あなたが家族から言われていることとして、次のようなことは、どれくらいあてはまりますか？	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
問4	あなたの学校で、先生から言われたり、すすめられたりしていることとして、次のようなことは、どれくらいあてはまりますか？	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
問5	あなたの学校では、次のようなことについて、先生から話を聞くことが、どれくらいありますか？	よくある	とどきどき とある	あまりない	まったくない
問6	あなたの学校で、先生から説明を受けてきたこととして、次のようなことは、どれくらいあてはまりますか？	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
問7	あなたの学校では、次のようなふり返りの活動をするのがどれくらいありますか？	よくする	とどきどき とする	あまりしない	まったくしない
問8	あなたの学校は、授業や行事などで、次のようなことをすることが、どれくらいありますか？	よくする	とどきどき とする	あまりしない	まったくしない
問9	あなたの学校で、先生から言われていることとして、次のようなことは、どれくらいあてはまりますか？	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
問10	あなたの学校で、先生が個別にアドバイスやコメントをくれたり、相談のってくれたりすることとして、次のようなことは、どれくらいあてはまりますか？	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない

■図表2-5-1 家庭における「学びの基礎力」育成に関わる指導・活動の現状(子どもの意識)

		〈小学5年生〉				〈中学2年生〉										
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)							
		100	80	60	40	20	0	()…その他(その他には無回答が含まれています。)	0	20	40	60	80	100		
I. 教示・ガイダンス	行動促進的 教示	問3⑥ 近所の子どもや姉妹とも仲良く遊ぶように、言われている。	14.9	22.1	26.4	36.6	11.1	19.9	33.5	35.4						
		問3⑮ お世話になった人にお礼の手紙や年賀状を書くように、言われている。	14.4	23.1	27.8	34.4	20.3	29.4	30.6	19.2						
		問3⑦ 何でも話し合える親友を作るように、言われている。	22.3	28.5	26.0	23.2	13.9	21.8	34.1	30.0						
		問3① 好ききらいなく何でも食べるように、言われている。	6.8	12.5	27.8	52.8	41.5		33.1	15.7	9.7					
		問3② 部屋のそうじや食器の後かたづけなど、自分のことは自分でやるように、言われている。	13.3	32.6		49.2	49.2		31.4	14.0	5.4					
		問3③ 早寝早起きなど、規則正しく生活するように、言われている。	14.7	29.7		50.9	37.8		34.1	20.0	8.1					
		問3⑧ 良い成績が取れるようにふだんからがんばれと、言われている。	11.3	20.1	30.1	38.5	39.1		31.2	19.0	10.7					
		問3④ ふだんから計画的に勉強するように、言われている。	12.2	23.7	30.0	34.1	30.9		31.2	24.9	13.0					
		問3⑨ やりはじめたことは途中で投げ出さなくて最後までやりとげるように、言われている。	7.1	18.3	30.8	43.8	30.1		35.0	25.1	9.8					
		問3⑩ 遊びの時間と勉強の時間をきっちりと区別するように、言われている。	8.1	16.5	27.5	47.9	42.4		25.8	20.7	11.1					
II. 学習活動	認知的指導	問3⑪ 勉強するときはだらだらせずに、集中してやるように、言われている。	6.6	12.4	27.5	54.5	47.7		30.3	14.1	7.9					
		問3⑫ よく確かめて、うっかりミスや思いこみをなくすように、言われている。	8.4	17.5	28.6	45.5	37.8		29.2	21.8	11.2					
		問3⑬ 寝ころんだりしないで、正しい姿勢で勉強するように、言われている。	9.0	16.7	26.4	48.0	34.7		28.4	22.2	14.7					
		問3⑭ 勉強する前に机の上から関係のないものを片づけるように、言われている。	15.1	22.3	27.7	34.9	20.0	21.3	31.5	27.0						
		問3⑤ 人が話しているときはしっかり聞くように、言われている。	5.7	14.6	29.9	49.7	35.0		32.4	22.7	9.8					
		問1⑥ 自分の小さなころのことや、これまでの成長について家族から話を聞く。	7.2	21.1	40.0	31.7	19.6		39.1	29.2	12.0					
		問1⑦ 家族から世の中のふしぎな話やワクワクするような話を聞く。	15.1	34.7	30.3	19.9	8.8	23.1	42.1	25.9						
		問2⑤ 学校で勉強したことが社会に出た時に役に立った話を、家族から聞いたことがある。	19.3	33.0	26.2	21.3	11.2	22.9	37.5	28.2						
		II. 学習活動	体験的活動	問1② 家族といっしょに自然の中でいろいろな活動をする。	14.3	39.3	34.4	12.0	20.8		43.1	31.3				
				問1③ 家族といっしょに豆まきやお盆などの行事をしたり、お墓まいりに行ったりする。	9.3	30.6		57.2	45.1		34.8	13.7	6.3			
問1④ 家族といっしょに美術館や博物館などに行く。	27.7				39.0	23.8	9.4	14.2	28.9	54.0						
問1① 家族といっしょにパソコンやインターネットをする。	30.1			21.6	27.7	20.6	12.1	21.5	23.0	43.4						
問1⑧ 家族といっしょに日曜大工や手芸、料理などをする。	16.2			31.3	32.9	19.6	8.9	24.9	36.7	29.5						

第 2 章 — 5

II・学習活動	0.1	21.2	31.0	32.2	15.5	問 1⑤ 新聞に書かれていることについて家族と話す。	10.6	29.9	32.7	26.6	(0.2)	
	0.0	43.2		35.2	14.9	6.7	問 1⑨ 家族といっしょに本を読んだり、読んだ本の感想を話し合ったりする。	9.0	29.7		58.2	(0.1)
	0.1	7.6	21.2	33.3		37.8	問 1⑩ 家族といっしょに成績表を見て、これからの目標について話す。	25.2	38.0	25.2	11.6	(0.0)
III・支援環境	0.0	8.3	28.6	39.7		23.4	問 2① 家族からたよりにされて、何かの役割をまかされている。	11.5	33.8	39.6	15.1	(0.1)
	0.0	7.6	18.3	34.6		39.5	問 2② 習い事やスポーツ、勉強などで自分が立てた目標を達成できるように家族が応援してくれる。	28.6	38.6	22.8	9.9	(0.1)
	0.1	5.9	13.6	31.3		49.1	問 2③ 宿題や勉強をきちんとやっているか、家族が声をかけてくれる。	30.6	37.4	21.1	10.7	(0.3)
	0.1	12.1	28.6	35.6		23.6	問 2④ 自分がなまけそうになった時は、家族がはげましてくれる。	13.2	33.2	34.2	19.2	(0.3)
	0.2	9.3	27.1	39.4		24.1	問 2⑥ 近所の人や知り合いからほめられたり、感謝されたりする。	10.7	33.4	37.2	18.5	(0.4)

■図表 2-5-2 学校における「学びの基礎力」育成に関わる指導・活動の現状(子どもの意識)

		〈小学 5 年生〉				〈中学 2 年生〉								
		(%)				(%)								
		100	80	60	40	20	0	()…その他(その他には無回答が含まれています)	0	20	40	60	80	100
I・教育的指導	0.2	6.5	31.0		60.3	問 9① そうじや給食などの当番活動は責任をもって取り組もう。	51.2	34.5	10.9	3.3	(0.2)			
	0.1	19.7	35.7		39.7	問 9⑫ 自分のことは自分でするという習慣を身につけよう。	23.2	38.7	28.4	9.7	(0.1)			
	0.2	7.6	18.5	30.6	43.1	問 9⑬ 早寝早起きなど、規則正しい生活をしよう。	24.2	36.8	26.0	13.0	(0.1)			
	0.0	6.6	27.9	45.8	19.7	問 4① 新しいことを学ぶ時は、これまでに学んだことを組み合わせ考えてみよう。	10.0	37.6	39.6	12.8	(0.1)			
	0.0	7.1	22.6	39.3	31.0	問 4⑩ 自分には少し難しいと思うような問題にもがんばって取り組もう。	17.1	41.9	31.1	9.8	(0.1)			
	0.0	7.5	20.7	38.1	33.7	問 4⑤ 校内のマラソン大会やドリル・プリントなどに取り組む時は、自分で目標を立てて、それを達成するようにがんばろう。	25.7	39.8	25.3	9.2	(0.1)			
	0.0	19.6	31.4	27.2	21.8	問 4⑨ 学校内外のコンクールや大会に積極的に参加しよう。	21.3	27.6	33.0	18.0	(0.0)			
	0.0	5.9	20.3	36.6	37.2	問 4⑥ まちがえた問題や自信のない問題に、くり返し挑戦しよう。	32.5	39.5	21.0	6.9	(0.2)			
	0.0	6.9	25.8	38.6	28.7	問 4⑧ いろいろな考え方や解き方を見つけたり、ためしたりしてみよう。	14.4	37.2	36.5	11.9	(0.1)			
	0.0	6.6	27.0	46.1	20.3	問 4② 授業で習ったことをふだんのくらしと結びつけて考えてみよう。	7.0	31.3	45.1	16.5	(0.2)			
	0.1	8.4	19.5	34.3	37.7	問 4③ 宿題以外にも家で自主的に勉強しよう。	30.3	39.3	21.9	8.5	(0.1)			
	0.1	7.3	25.7		64.1	問 9② 宿題は決められた日までにきちんとやろう。	56.0		28.3	11.1	4.5	(0.1)		
	0.0	12.5	36.4	30.5	20.6	問 4⑦ 毎日決められた量の練習問題に取り組もう。	9.9	27.4	43.8	18.8	(0.2)			
	0.2	6.1	19.7	38.4	35.6	問 9③ 他人が見ていなくても、なまけ心に負けないでがんばろう。	24.1	36.6	30.0	9.3	(0.1)			
	0.1	5.7	19.8	34.7	39.7	問 9④ 一度やり始めたことは、途中で投げ出さないうで最後までやろう。	25.9	38.9	27.4	7.7	(0.1)			
	0.2	13.6	31.2		50.7	問 9⑤ 勉強と遊びの区別をきっちりとつけよう。	37.4	34.7	20.9	6.9	(0.2)			
	0.1	5.9	19.0	38.1	36.9	問 9⑥ 勉強する時には、他のことに気を取られないで集中しよう。	25.7	38.7	26.8	8.7	(0.1)			
	0.1	6.0	21.7	38.4	33.7	問 9⑦ 文章を読む時は、まちがえないように注意して読もう。	15.2	34.6	35.4	14.8	(0.1)			
	0.1	15.6	35.0		44.8	問 9⑧ 見直しや確かめをして、うっかりミスや思い込みをなくそう。	31.2	39.9	22.4	6.4	(0.1)			
	0.1	11.0	26.2	35.5	27.2	問 9⑨ 授業中、机にひじをついたり、足を投げ出したりしないできちんとすわろう。	13.8	29.9	35.5	20.7	(0.2)			
0.1	6.1	17.0	31.8	45.0	問 9⑩ 授業が始まる前に、関係のないものは片づけよう。	25.4	34.9	26.9	12.8	(0.1)				
0.1	9.2	21.1	34.3	35.3	問 9⑪ 明日の授業で必要なものがそろっているかを、前日に確認しよう。	19.9	25.4	34.1	20.5	(0.1)				
0.0	6.2	21.2	37.6	35.0	問 4④ しっかりとめあてを持って、練習や実験などに取り組もう。	24.6	42.3	25.2	7.9	(0.1)				
0.1	6.6	16.0	41.1	36.3	問 6① インターネットの基礎的な使い方やマナー、ルールについて	31.4	41.0	18.8	8.7	(0.2)				
0.0	5.5	21.0	38.5	35.0	問 6② 学校図書館の使い方について	25.3	40.7	25.5	8.5	(0.1)				
0.0	11.8	24.4	34.0	29.8	問 5① 先生の子どもの頃の夢や、昔失敗したことについて	20.8	41.4	24.0	13.8	(0.0)				

「学力向上のための基本調査」の設計と結果概要

I 教示・ガイダンス	認知的指導	0.0	12.9	32.8	36.4	17.8	問5② 食べ物の好ききらいが健康にどんな影響を与えるかについて	5.3	18.4	46.4	29.8	
		0.1	14.8	35.6	32.5	16.9	問8⑧ 先生や友だち以外の人から、勉強や活動の成果についての感想やアドバイスをもらう。	9.2	27.8	39.6	23.3	
		0.1	16.6	33.7	30.9	18.7	問5③ がんばって成果を上げている先輩や友だちのことについて	14.2	38.6	31.7	15.4	
		0.0	6.4	20.4	35.1	38.1	問6③ 上手なノートの取り方について	13.8	36.9	36.2	13.2	
		0.2	12.9	34.2	35.6	17.2	問6④ 家庭での勉強時間の配分や計画の立て方について	15.4	38.5	35.1	11.0	
		0.0	11.2	31.5	37.7	19.5	問6⑤ 家庭での予習や復習の仕方について	16.1	41.3	31.8	10.8	
		0.0	12.9	32.6	50.1	2.9	問6⑥ 忘れ物をしない、ベルがなったら着席するなど、授業を受ける時のルールについて	56.6	31.7	8.9	2.8	
		0.0	9.0	33.9	54.2	2.9	問6⑦ 自分の意見を伝える時や、人の意見を聞く時の態度について	40.2	41.3	15.5	3.1	
		0.2	23.7	35.1	28.3	12.7	問10③ 読書について	16.9	38.7	39.8	0.3	
		0.1	12.8	26.1	38.0	23.0	問10④ 教科の学習について	13.6	38.3	28.7	19.4	
0.3	14.3	24.5	36.1	24.9	問10⑤ 提出した宿題について	12.1	31.6	32.0	24.0			
0.2	24.7	33.9	26.9	14.4	問10① 悩みごとについて	9.1	24.4	33.8	32.5			
0.2	19.7	32.7	32.7	14.7	問10② 健康について	5.5	25.2	36.9	32.3			
II 教科 心身	体験的活動	0.2	8.6	31.9	39.3	20.2	問8① 豊かな自然の中で、楽しく活動をする。	7.3	23.7	49.8	19.1	
		0.2	16.2	32.9	35.0	15.8	問8② お年寄りから昔の遊びを教わったり、自分の住む地域のくらしや行事についての話を聞いたりする。	18.9	43.5	32.8	0.2	
		0.1	29.2	39.8	23.4	7.4	問8③ 美術館や博物館などに行って、展示物を見る。	14.8	41.4	45.8	0.2	
		0.1	14.2	30.8	33.2	21.6	問8⑨ ちがう学年の友だちとグループで活動をする。	6.7	16.8	36.2	40.1	
		0.1	48.2	34.6	11.9	5.3	問8④ 図書館などに置いてある小(中)学生新聞を読む。	6.6	29.5	61.7	0.2	
		0.1	11.4	28.1	33.2	27.2	問8⑪ お世話になった人へのお礼の手紙を書く。	2.1	23.6	33.5	28.6	14.2
		0.2	6.5	25.3	39.3	28.7	問8⑦ おもしろい実験や楽しい教材を使って学習する。	12.7	35.3	38.4	13.6	
		0.1	22.8	36.6	27.8	12.7	問8⑤ 新聞記事の内容について考えたり、話し合ったりする。	5.2	17.1	39.1	38.6	
		0.1	17.6	35.0	27.7	19.6	問8⑩ 自分の悩みや気持ちを素直に友だちと話し合う。	13.7	23.0	35.5	27.6	
		0.1	6.6	22.3	37.4	33.6	問8⑥ みんなで劇や合唱、スポーツなどの練習に打ち込む。	40.8	36.8	16.8	5.6	
		0.2	16.8	37.9	31.2	13.9	問8⑪ 授業の中でどんなことがおもしろかったかについて話し合う。	16.3	45.5	34.1	0.1	
		0.2	10.7	34.1	36.4	18.6	問8⑫ おどろいたことや感動したことを、自分のことばで表現する。	14.0	11.7	30.8	39.0	18.4
		0.1	14.8	38.0	32.4	14.7	問8⑮ 勉強することが、ふだんの生活や自分の将来にどのように役立つかについて考える。	8.6	30.0	40.6	20.8	
		0.1	8.1	26.4	42.6	22.8	問7① テストの結果や学習プリントをふり返りながら、どれくらいできるようになったかを確認する。	15.2	41.3	34.1	9.4	
		0.1	12.7	34.5	34.5	18.2	問8⑫ 友だちの良いところや友だちから学んだことを伝え合う。	7.4	28.3	42.6	21.6	
		0.2	11.4	30.6	54.1	3.7	問8⑬ 返されたテストの見直しをする。	37.5	37.7	18.1	6.7	
		0.2	12.1	33.9	34.9	19.0	問8⑬ 勉強の仕方の工夫を発表し、お互いに参考にし合う。	6.1	23.1	42.9	27.7	
		0.2	5.0	22.3	39.0	33.5	問8⑱ くり返して書いたり、読んだりして、ものを覚える。	23.7	43.6	24.7	7.8	
		0.3	8.8	28.1	36.9	25.9	問8⑳ 学習したことや自分の意見を絵や図に表したり、まとめたりする。	13.4	33.4	37.2	15.7	
		0.1	9.0	29.3	37.5	24.1	問7② ふり返りカードや小テストで自分の弱点を確認する。	16.7	33.6	36.7	13.0	
0.1	8.7	29.2	38.6	23.4	問7③ 学習内容が理解できなかったり、テストでまちがえたりした原因について考える。	15.0	38.0	35.8	11.2			
0.2	10.4	34.7	37.3	17.4	問8⑱ これから何を学び、どういう活動をするかについてのめあてや見直しをもつ。	9.0	31.7	43.5	15.7			
0.1	12.1	32.6	36.3	18.9	問7④ 学習のふり返りをした結果をもとに、次の目標を立てる。	11.8	33.2	40.9	14.0			

2 家庭での指導・活動の回答結果

まず、図表 2-5-1 の「I. 教示・ガイダンス」のカテゴリーについて見てみよう。

家族からふだん言われていることとして「とてもあてはまる」(または「よくある」)と回答している割合で見て、上位 3 項目に該当するのは、小 5 生では「勉強するときにはだらだらせずに、集中してやるように言われている」55%、「好ききらいなく何でも食べるように言われている」53%、「早寝早起きなど、規則正しく生活するように、言われている」51%となっており、中 2 生では「部屋の掃除や食器の後片付けなど自分のことは自分でやるように言われている」49%、「勉強するときにはだらだらせずに」48%、「遊びの時間と勉強の時間をきっちりと区別するように」42%となっている。

反対にトップボックスの数値で見て、下位 3 項目に該当するのは、小 5 生で「家族から世の中のふしぎな話やワクワクするような話を聞く」20%、「学校で勉強したことが社会に出たときに、役に立った話を家族から聞いたことがある」21%、「何でも話し合える親友を作るように言われている」23%となっており、中 2 生では「家族から世の中のふしぎな話やワクワクするような話を聞く」9%、「近所の子どもや弟妹とも仲良く遊ぶように言われている」11%、「学校で勉強したことが社会に出たときに、役に立った話」11%となっている。

勉強に向かう姿勢や基本的な生活習慣に関わることでは、小 5 生、中 2 生ともかなり口やかましく言われている様子が浮かんできてくる。しかし、子どもの知的好奇心を刺激したり、勉強したことが実際に社会に出てからどのように役立っているかといった勉強への動機付けにつながるような話を家庭で聞く機会に恵まれている子どもの割合は少ないことがわかる。すなわち、「○○しなさい」といった行動の指示(指図)は多くの子どもたちがふだ

んから受けているが、まとまった知識や家族の経験の伝達を伴い、子どもの向上心を鼓舞し、子どもの行動の望ましい変容を促すような「認知的指導」に属するような働きかけは保護者にとっても容易ではなく、家庭の文化的指向に大きく左右されるものであることがうかがわれる。

「II. 学習活動」のカテゴリーでは、「家族といっしょに豆まきやお盆などの行事をしたり、お墓参りに行ったりする」が、トップボックスの数値で見て、小 5 生 57%、中 2 生 45%と最も高くなっており、次いで、比較的高いのが小 5 生、中 2 生ともに「家族といっしょに成績表を見て、これからの目標について話す」という項目であり、小 5 生 38%、中 2 生 25%となっている。しかし、成績のことについてさえ、小 5 生では 3 割弱、中 2 生では 4 割弱の子どもが「まったく」または「あまり」家族と話さないと回答している。これは、子どもに対するいわゆる放任主義の傾向を一部には反映しているものであろう。けれども、子どもの成績については、どう対応したらよいのか、子どもに何をどうアドバイスしてあげたらよいのかわからず戸惑っている保護者が少なくないことも示しているのではないだろうか。

このカテゴリーで、トップボックスの回答割合が最も低いのは、小 5 生では「家族といっしょに本を読んだり、読んだ本の感想を話したりする」7%、次いで「家族といっしょに美術館や博物館に行く」9%、中 2 生では、同じくこの 2 つがほぼ並んで 3%程度となっている。後者は、地域におけるそうした施設の整備状況にも当然大きく左右されるが、家庭での読書を通じた学び合いの活動もなかなか成立が難しいようである。自然体験も、家族といっしょに行う活動としては、小 5 生でもトップボックスは 12%、中 2 生では 5%程度に止まっている。この項目についても地域の自然環

境に左右されるところは少なくないが、ゆっくりと子どもと外に出かけていくことがなかなかままならない保護者の多忙さも反映していると思われる。

子どもの望ましい行動を後押しするような共感的な「Ⅲ. 支援環境」のカテゴリーについては、トップボックスの数値で見て、最も高いのは、

小5生、中2生ともに「宿題や勉強をきちんとやっているか、家族が声をかけてくれる」(小5生49%、中2生31%)、次いで、やはり小5生、中2生ともに「習い事やスポーツ、勉強などで自分が立てた目標を達成できるように家族が応援してくれる」(小5生40%、中2生29%)となっている。

3 学校での指導・活動の回答結果

2と同様に、図表2-5-2の学校での指導・活動について「Ⅰ. 教示・ガイダンス」の領域から見てみよう。

先生からふだん言われていることとして「とてもあてはまる」(または「よくある」「よくする」)と回答している割合で見て上位3項目に該当するのは、小5生では「宿題は決められた日までにきちんとやろう」64%、「そうじや給食などの当番活動は責任をもって取り組もう」60%、「自分の意見を伝えるときや人の意見を聞くときの態度について」54%となっており、中2生では「忘れ物をしない、ベルが鳴ったら着席するなど、授業を受けるときのルール」57%、「宿題は決められた日までに」56%、「そうじや給食などの当番活動」51%となっている。

反対に、トップボックスの回答割合で見て、下位3項目に該当するのは、小5生で「先生や友達以外の人から、勉強や活動の成果についての感想やアドバイスをもらう」17%、「家庭での勉強時間の配分や計画の立て方について」17%、「食べ物の好ききらいが健康にどんな影響を与えるかについて」18%、中2生では「食べ物の好ききらい」5%、「授業で習ったことをふだんのくらしと結びつけて考えてみよう」7%、「先生や友達以外の人から、勉強や活動の成果についての感想やアドバイスをもらう」9%となっている。これらの項目は、小5生、中2生ともに、順位に関わらずトップボックスの数値が総じて低いものである。

「宿題は決められた日までに」に関しては、前

述の小5生、中2生ともに先生からよく言われていると意識している割合が相対的に高いのであるが、「家庭での勉強時間の配分や計画の立て方」「毎日決められた量の練習問題に取り組もう」あるいは「家庭での予習や復習の仕方について」など、家庭での具体的な学習の進め方に関しては、先生からふだんに言われていることとして「とてもあてはまる」と回答する割合は、小5生、中2生ともかなり低いレベルに止まっている。これは、学校における教師の指導が必ずしも徹底していない可能性もあるが、教師の指導を受け止め切れず、そのような指導を教師から受けているということ自体が意識にあまり残っていない子どもたちも少なくないことを示していると考えられる。

先生から個別にアドバイスを受けたり相談にのってもらったりする「Ⅱ. カウンセリング」については、「とてもあてはまる」と回答する割合は、小5生では高くても25%、中2生では高くても14%である。ただ、その中で小5生、中2生ともに、教科の学習や宿題のことで先生に個別に相談する割合は、個人的な悩みや読書の相談に比べると高い。

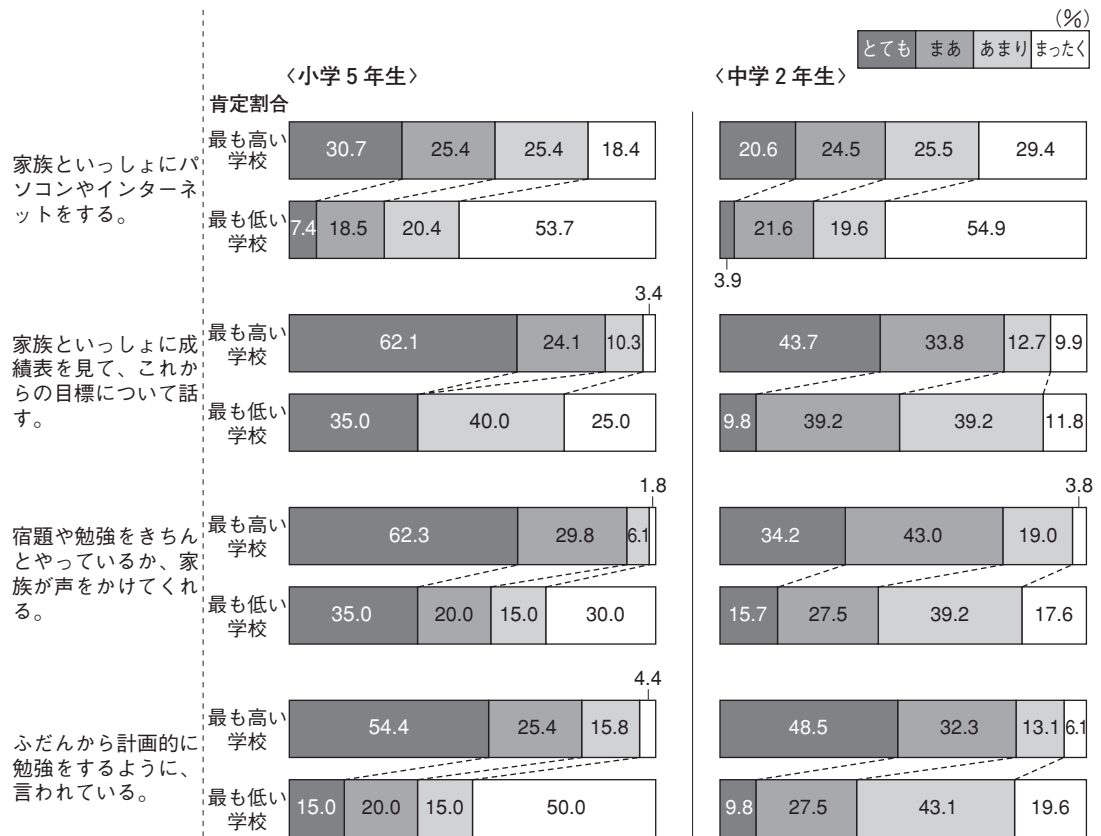
「Ⅲ. 学習活動」の領域については、「よくする」と回答する割合で上位3項目を見ると、小5生、中2生ともに順位は入れ替わるが同じ項目となり「返されたテストの見直しをする」(小5生54%、中2生38%)、「みんなで劇や合唱、スポーツなどの練習に打ち込む」(小5生34%、中2生41%)、「くり返して書いたり、読んだりして、

ものを覚える」(小5生34%、中2生24%)となっている。また、反対に下位3項目についても、小5生、中2生ともに同じ項目で順位も同じであり、「図書館などに置いてある小(中)学生新聞を読む」(小5生5%、中2生2%)、「美術館や博物館などに行って、展示物を見る」(小5生7%、中2生2%)、「授業の中でどんなことがおもしろかったかについて話し合う」(小5生14%、中2生4%)となっている。

「返されたテストの見直しをする」という学習活動の経験は、小5生、中2生ともに相対的に高いのであるが、しかし、「学習内容が理解できなかったり、テストで間違えたりした原因について考える」という、理解できなかったり間違えた原因を立ち止まってよく考えているかどうかの問いでは、小5生23%、中2生15%程度

に止まっている。すなわち、テストの見直しをしているとはいえ、せいぜい、誤答部分や解答できなかったところに正解を記入するという程度の表面的な見直しに終わっている子どもが少なくないことをうかがわせる。また、「テストの結果や学習プリントをふり返りながら、どれくらいできるようになったかを確認する」(小5生23%、中2生15%)、「学習のふり返りをもとに次の目標を立てる」(小5生19%、中2生12%)という学習のメタ認知に関わる活動についても、小5生、中2生ともに低調であり、これらは、第2章第3節の「学びの基礎力」のところで見たように、自律的で計画的な学習行動が成立するまでに至っていない子どもが多い背景要因の一つとなっていると考えられる(図表2-3-2参照)。

■図表 2-5-3 家庭における指導・活動の学校間の違い(個別項目の例)



4 学校間での、家庭または学校での指導・活動の違い

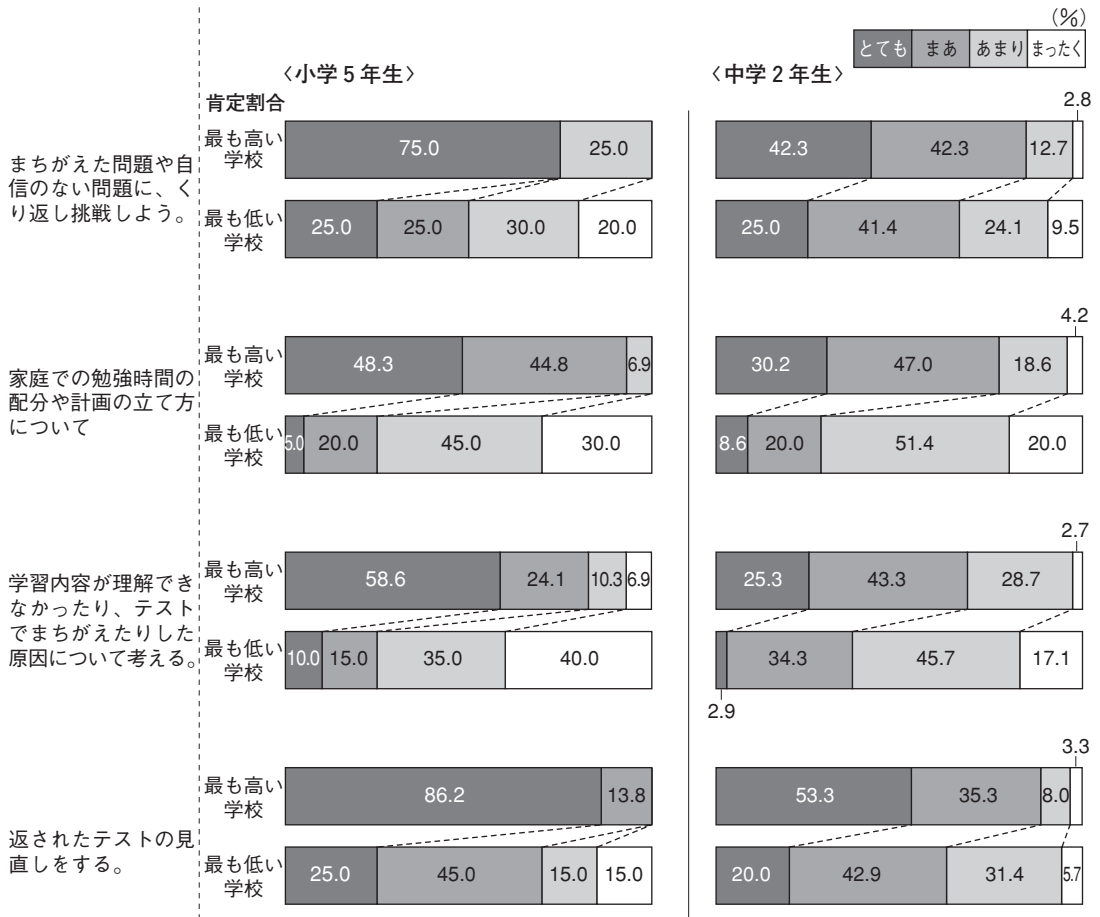
前ページの図表2-5-3は、「学びの基礎力」育成に関わる家庭での指導・活動のいくつかの項目について子どもの肯定割合が最も高い学校と最も低い学校を対比させたものである。また、図表2-5-4は、学校の指導・活動のいくつかの項目についての同様な対比を行ったものである（いずれの図表においても、項目によって該当する学校は異なる）。

家庭における指導・活動の学校間での違いは、学校間での子どもの家庭での教育的環境の違いを示すものと言える。図表2-5-3は一部の例を示しているが、ほとんどの項目で大きなバ

ラツキが生じている。学校での教育活動は、このような学校間による家庭の教育的環境の違いを抱えながら、取り組まれているのである。

他方、学校における指導・活動の学校間の格差は、学校における教育活動の取り組み方の違いを示すものであり、家庭の場合と同様に、図表2-5-4に示すように、ほとんどの項目で大きなバラツキが見られるのである。これらの項目の内容から見ても、学校での指導・活動のバラツキを上で見たような家庭環境や地域の違いのみに帰することはできないことを念のために添えておきたい。

■図表2-5-4 学校における指導・活動の学校間での違い(個別項目の例)



おわりに

以上、「学びの基礎力」の育成に関わると考えられる家庭や学校での指導・活動の程度に関する子どもの意識、およびその学校間のバラツキの状況を見てきた。これらの子どもによる回答結果は、ある意味では、子どもによる学校の教育的活動(あるいは家庭の教育的活動)の‘評価’を示しているものである。ある小学校の教師は、今回の調査における学校の指導・活動の部分を子どもに答えさせるときに「これはきみたちが付ける‘先生の通知表’だよ。遠慮なく記入してほしい。」というコメントをしたと言う。教科学力の調査、「学びの基礎力」や「生きる力」の自己評価も、むろん子どもによるそれらの達成度を問う学校評価という意味合いをもつものであるが、この指導・活動についての子どもの回答は、学校がどれだけ教育活動に熱心に取り組んでいるのかを直接的に示す一つの指標となっていると言えるだろう。

しかし、ここで留意しておきたいことは、このような調査結果を見るとき、単にどの項目の

数値が平均よりも高いか低いかを見るのではなく、自分の学校が、子どもの育成において、どんな力を育てることに主眼を置き、そのためにどんな取り組みに重点を置いているのかという学校のポリシーとして重視すべき項目を見定め、その項目についてのより丁寧な検討を加えるという姿勢が大切であろう。学校として力を入れて取り組んできたことに関わる項目での結果がよいものであれば、それは取り組みの成果が検証されたと言えるし、よくないものであれば、それはこれまでの取り組みに何か見直しを迫っているのである。このように調査結果をどう見るかということに関しては、第6章で詳しく展開されている。

これからの‘めざしたい学校づくり’を考えるに当たり、学校の教育活動を幅広く点検し、多面的に実態を把握する一つの方法として、このような項目の活用を検討していただければ幸いである。